

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ＞
北海道駒ヶ岳では、本日（2日）00時頃から山頂火口原浅部を震源とする火山性地震が増加しています。また、9月26日以降に認められている山頂火口原方向が上がる傾斜変動も変化が大きくなっています。

火山活動が高まっており、今後、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があることから、2日07時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況（図1～10）

北海道駒ヶ岳では9月26日頃から山頂火口原浅部を震源とする火山性地震が増加しており、山頂火口原付近に設置した傾斜計では、火口原方向が上がる傾斜変動が観測されています。本日（10月2日）00時頃から、傾斜変動量が大きくなり、地震回数はさらに増加しています。

監視カメラによる観測では、昭和4年火口など、山頂火口原の各火口の噴気活動に特段の変化は認められていません。

なお、火山性微動や9月28日20時30分頃に観測されたマグニチュード（M）1.4（暫定値）のようなM1以上のやや規模の大きな地震の増加は観測されていません。また、GNSS連続観測では、特段の変化は認められていません。

○活動評価

北海道駒ヶ岳では、9月26日頃から継続している山頂火口原浅部の地震活動及び山頂火口原方向上がりの傾斜変動の状況に、10月2日00時頃以降、活発化及び変化量の増大が認められています。

火山活動が高まっており、今後、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

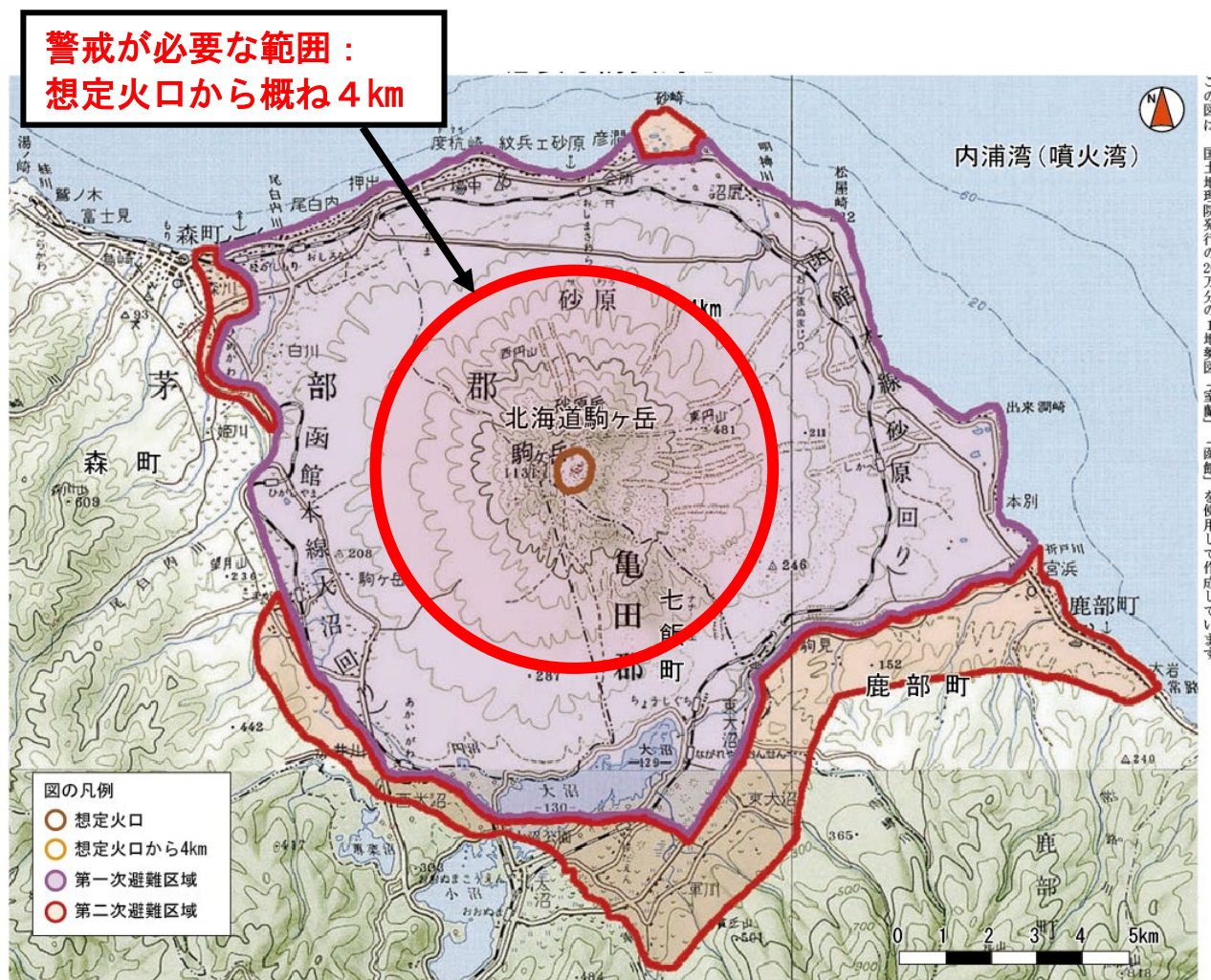


図1 北海道駒ヶ岳 警戒が必要な範囲

- ・ 想定火口から概ね 4 km の範囲（赤円内）では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

①傾斜計の推移（分値）

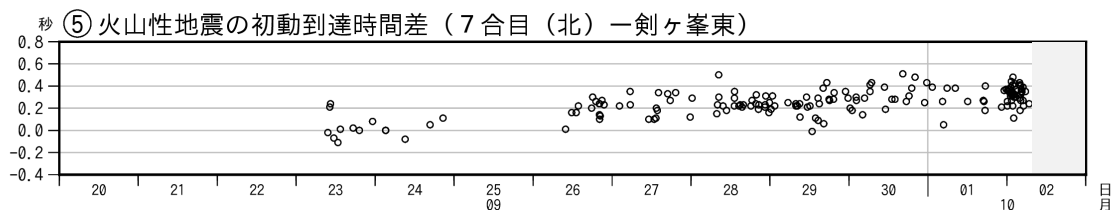
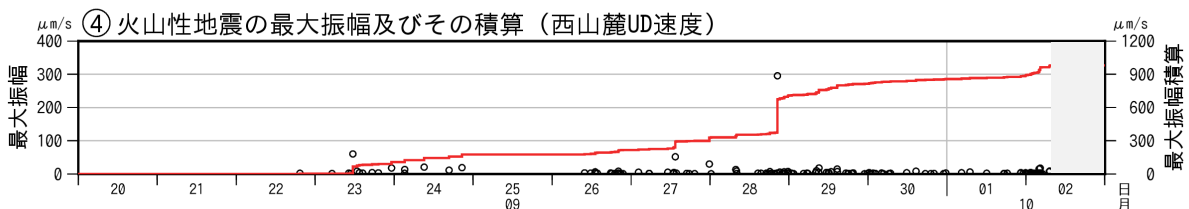
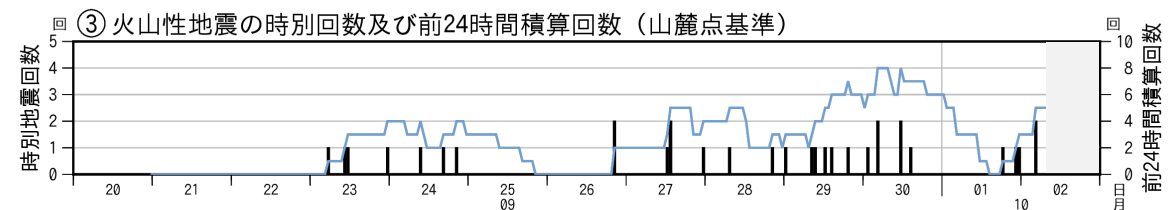
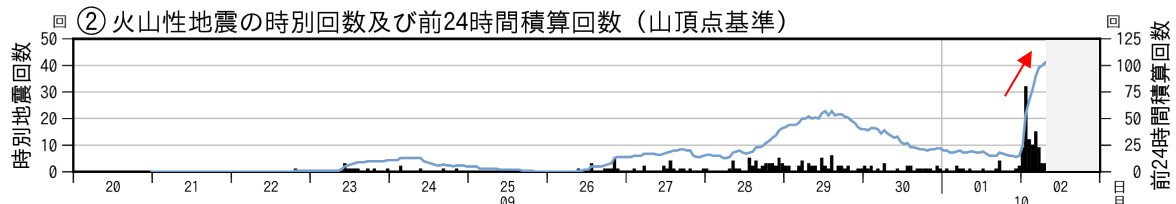
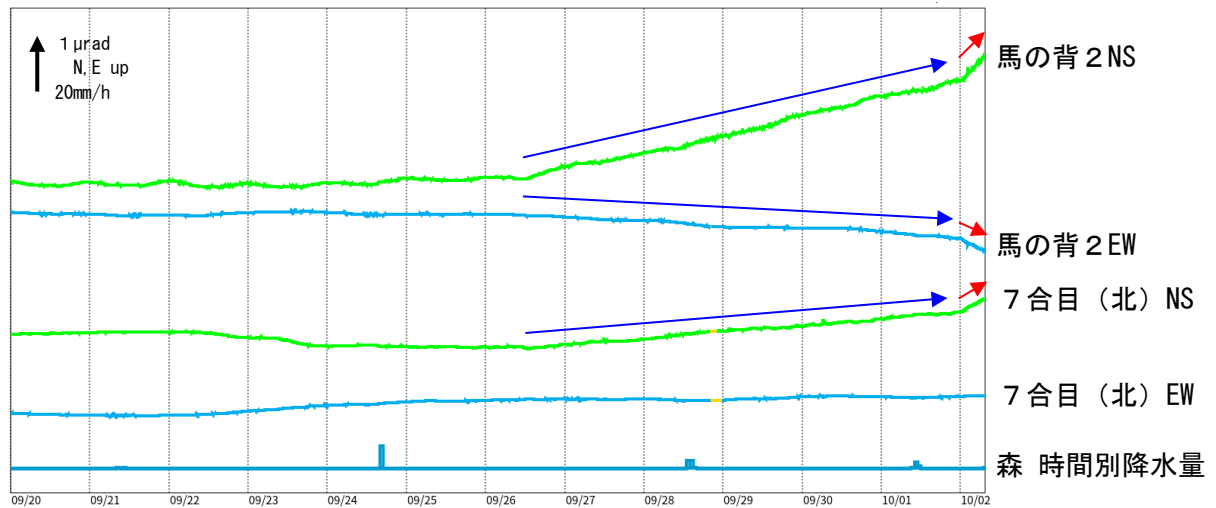
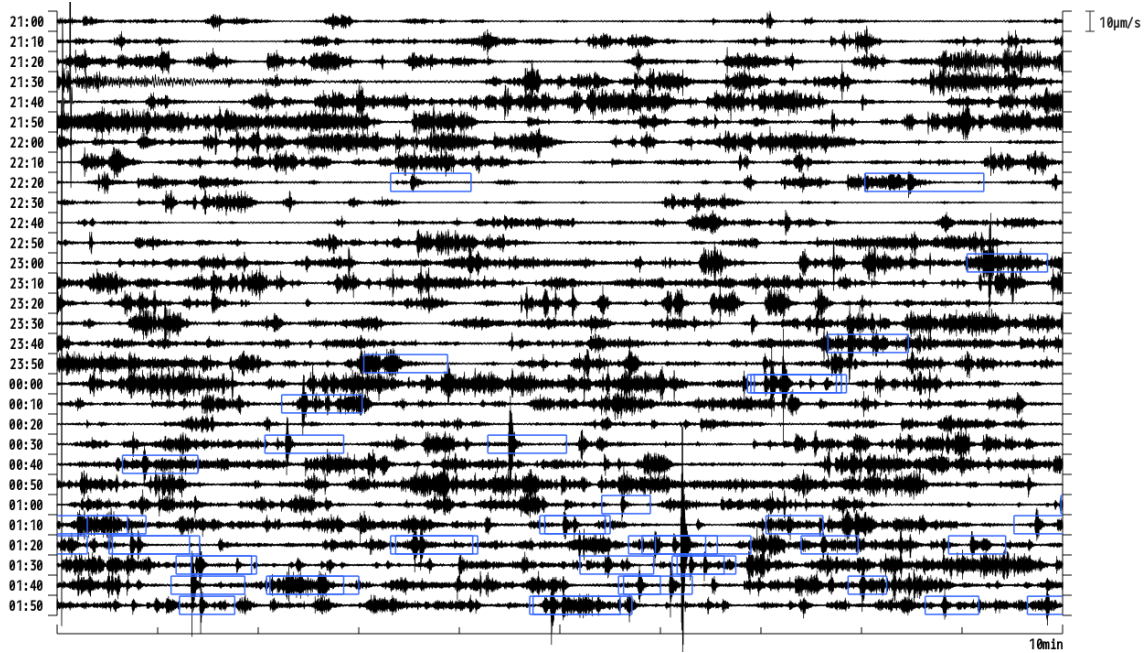


図2 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（2026年9月20日～10月2日07時30分）

- ①の7合目（北）は観測点下500mに埋設したセンサーのデータを使用しています。
- ②③の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の特別回数、青色の折れ線は積算回数を示します。
- ④⑤は山頂点基準及び山麓点基準のいずれかを満たす火山性地震における最大振幅、初動到達時間差を示します。
- ・9月26日頃から火山性地震がやや増加し、山頂火口原付近の傾斜計では火口原方向が上がる傾斜変動が見られていました（青矢印）。その後、10月2日00時頃からさらに火山性地震が増加し、傾斜変動も変化が大きくなっています（赤矢印）。

① 剣ヶ峰東地震観測点 上下速度波形



② 西山麓地震観測点 上下速度波形

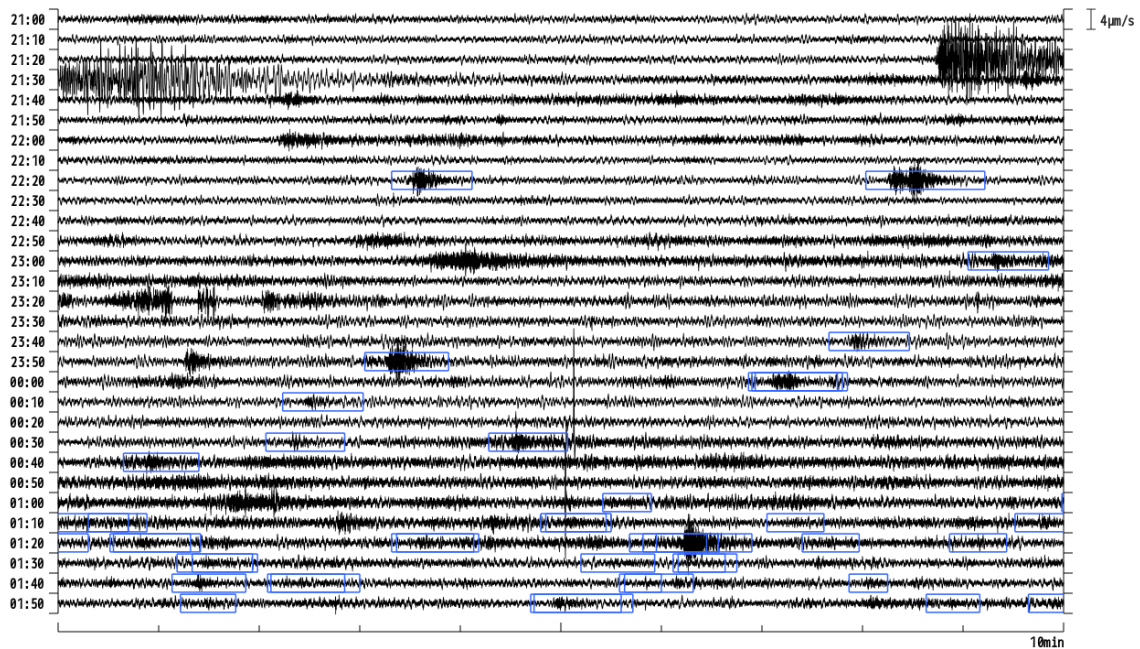


図3 北海道駒ヶ岳 剣ヶ峰東観測点及び西山麓観測点の上下速度波形（10月1日21時～2日02時）

- ・青枠は山頂（剣ヶ峰東）・山麓（西山麓）の観測点のいずれかもしくは両方で観測された火山性地震を示します。
- ・10月2日00時頃以降、火山性地震が増加しています。

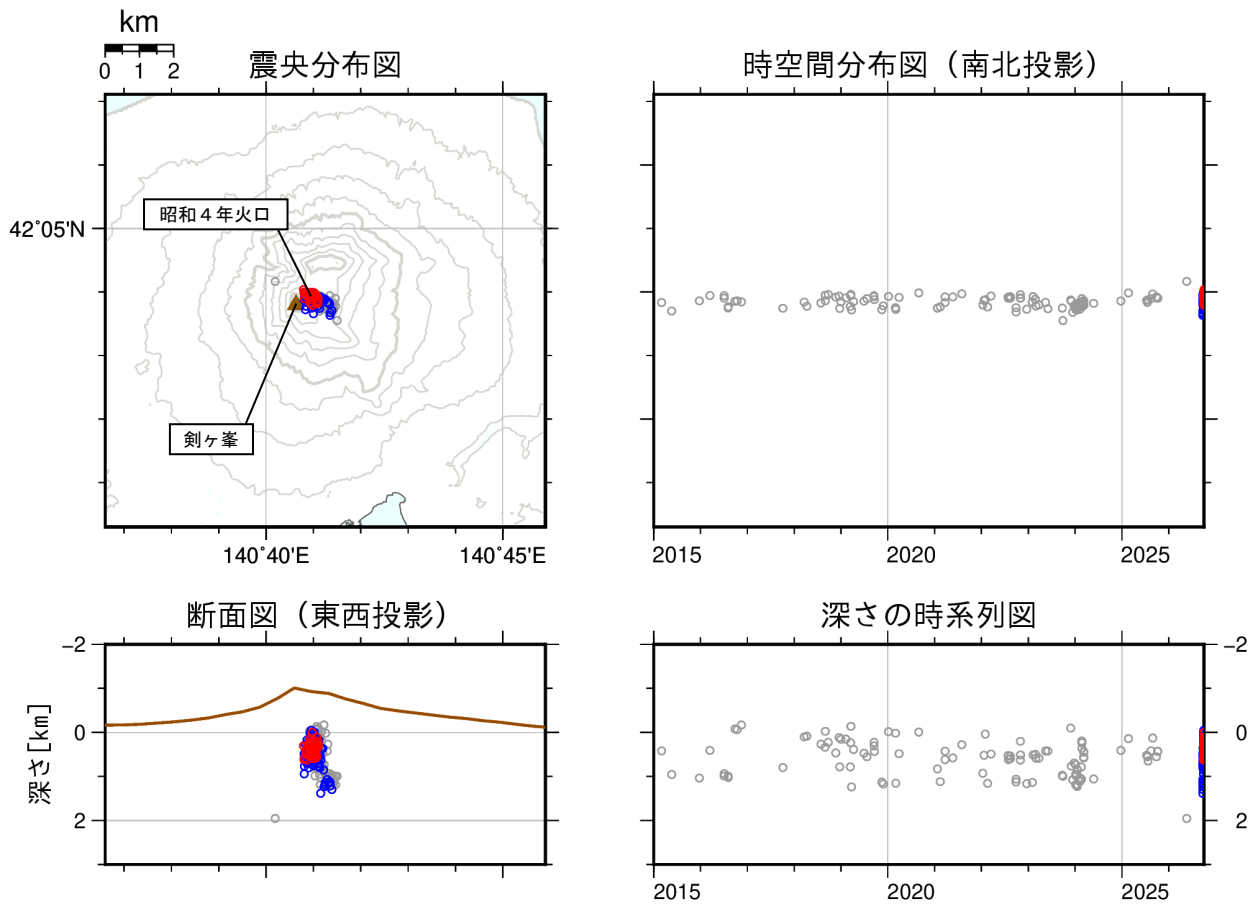


図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布 (2015年1月～2026年10月2日07時)

- : 2015年1月～2026年9月22日の震源
- : 2026年9月23日～9月30日の震源
- : 2026年10月1日～10月2日7時の震源

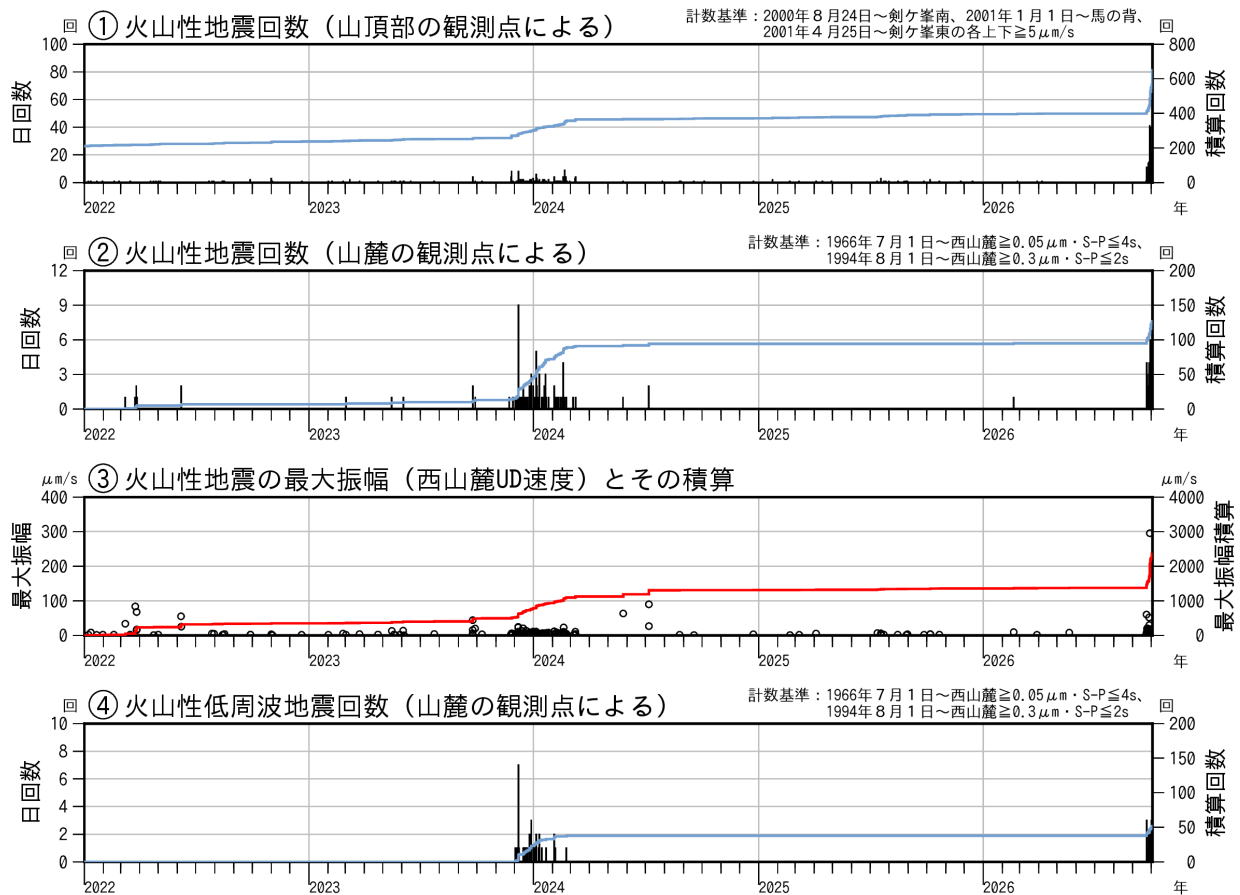


図5 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（2022年1月～2026年10月2日07時）

各火口の位置は、図12を参照してください。

①②の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の月回数、青色の折れ線は積算回数を示します。

③のシンボル（○）は山頂点基準及び山麓点基準のいずれかを満たす火山性地震における西山麓観測点上下成分の最大振幅、赤色の折れ線はその積算を示します。



図6 北海道駒ヶ岳 南東側から見た山頂火口原の状況（鹿部公園南東監視カメラによる）
・各火口の噴気活動の状況に特段の変化は認められません。



図7 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）
・昭和4年火口の噴気活動の状況に特段の変化は認められません。

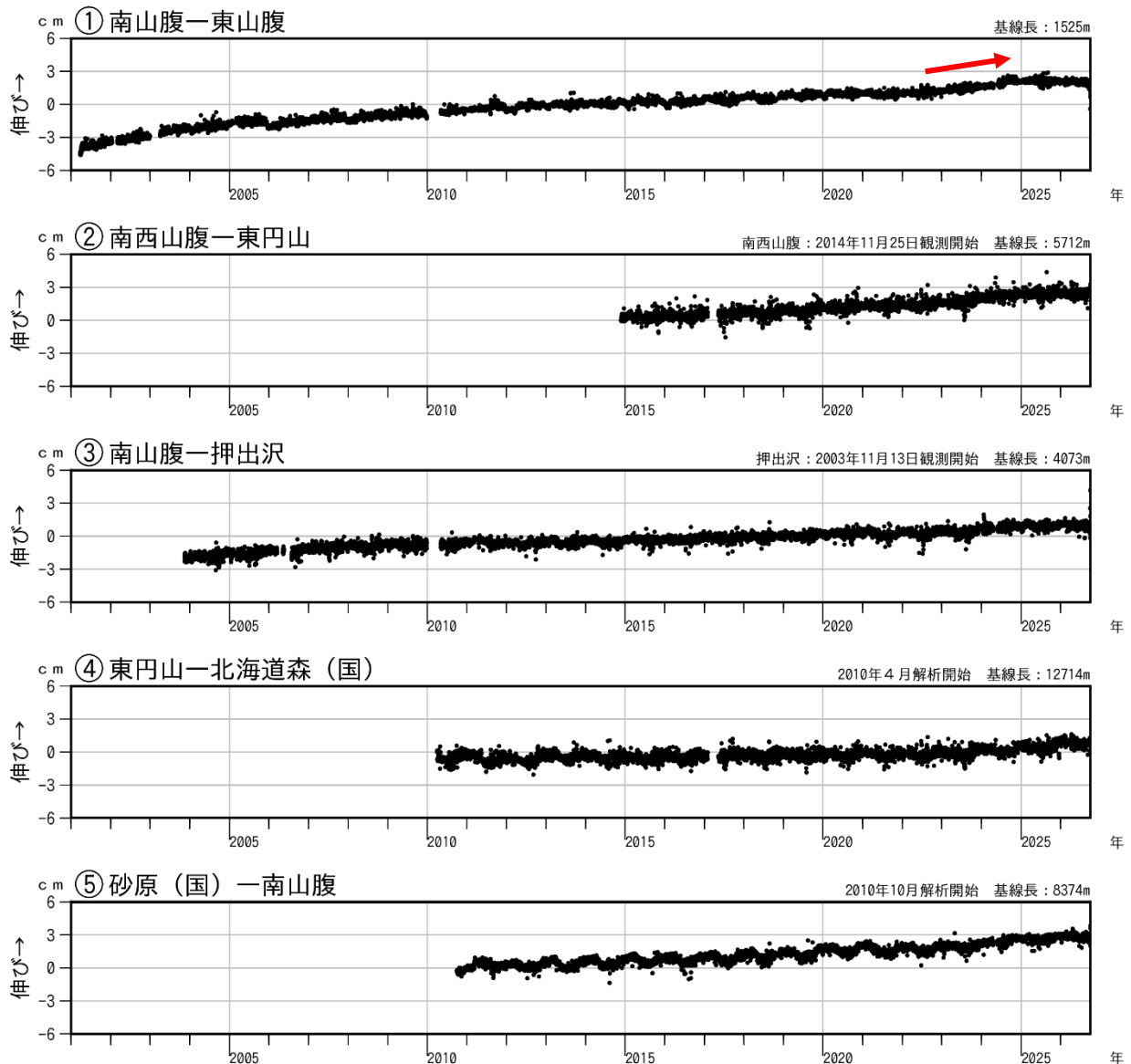


図8 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化(2001年4月～2026年9月)

グラフ①～⑤は図9の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長(赤矢印)が見られましたが、その後は概ね停滞しています。
- ・長期的には、山頂火口原付近を挟む基線(基線①、③)で断続的な伸長が続いています。

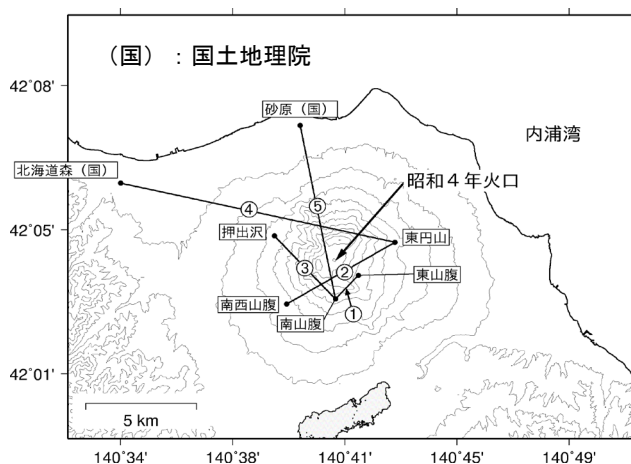


図9 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

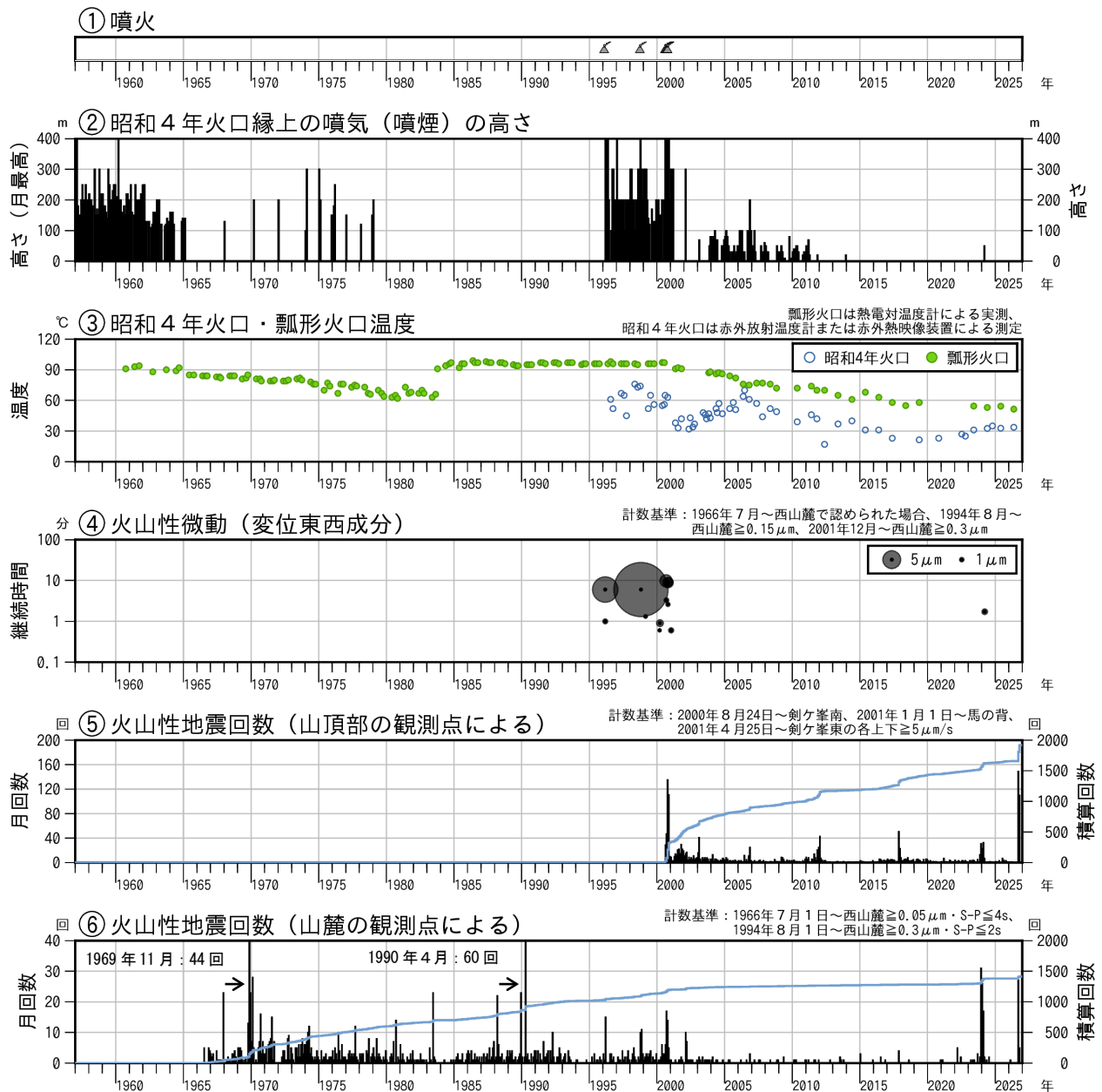
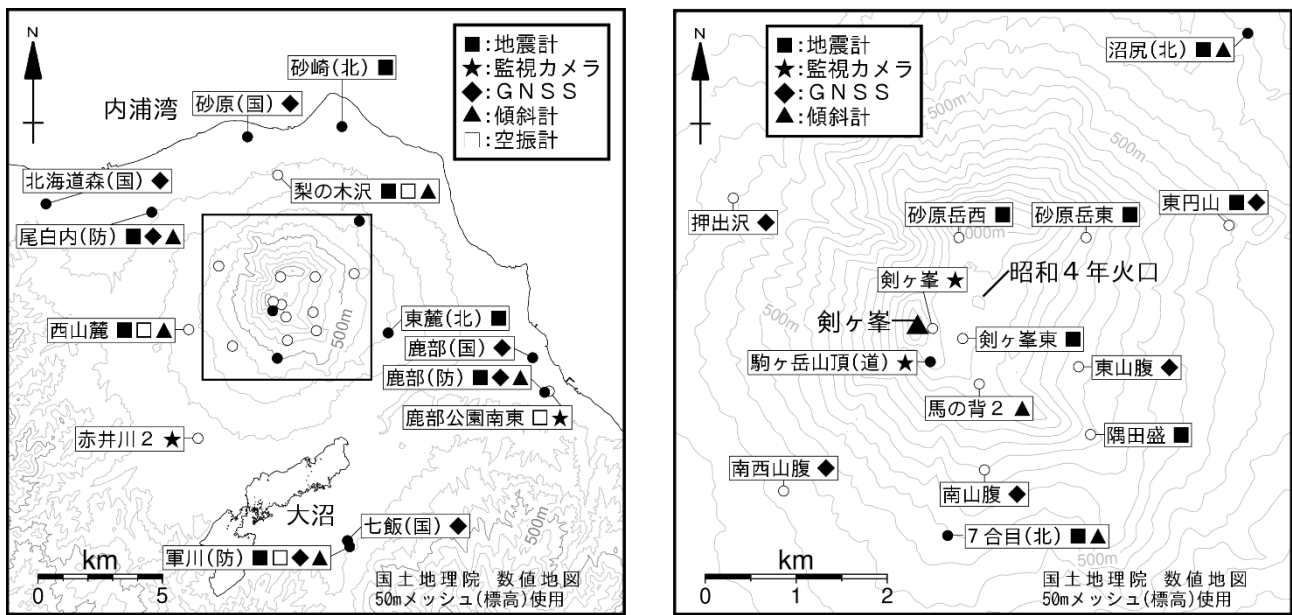


図10 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2026年10月2日08時）

各火口の位置は、図12を参照してください。

⑤⑥の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の月回数、青色の折れ線は積算回数を示します。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。左図中の四角囲みは右図の表示範囲を示します。
(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道):北海道

図11 北海道駒ヶ岳 観測点配置図



図12 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図